

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科				22	22	7	
	電気電子工学科				7	7	7	
	電子情報工学科				18	18	7	
	物質工学科				8	8	7	
	環境都市工学科				8	8	7	
	生産システム工学専攻		12		12	7		
	環境システム工学専攻				12	7		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=19&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学理事・ 副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画 推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
・授業計画（シラバス）の作成過程 学科毎のカリキュラム・ポリシー及びそれに基づく教育課程表を踏まえ、授業計画（シラバス）を作成・公表している。 ・授業計画書の作成・公表時期 ① 担当部署より授業担当教員に対し、次年度開講予定の授業科目のシラバス作成を依頼する（10月中旬頃）。 ② 授業担当教員は、国立高専統一のWebシラバス入力システム（画面入力）により、シラバスを作成する（～3月上旬）。 ③ Webシラバス入力システムにて作成されたシラバスを、創造教育開発センター教員等が内容の点検を行い、必要があれば授業担当教員に修正を依頼する。 （～3月下旬） ④ 国立高等専門学校機構の開設するホームページにて、全高専分のシラバスが公表される。（4月1日）なお、本校ホームページ経由でもアクセス可能。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?schoool_id=19&lang=ja
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
シラバスにおいて、あらかじめ設定し公表している評価割合（成績評価方法・基準）により、厳格かつ適正に評価された成績を認定会議に諮り、承認を得た後、単位認定を行っている。なお、授業科目の履修成績に対する異議申立ての手続き等について、全校的なガイドラインを設け、学生に不利益とならぬよう配慮している。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

これまで本校では履修科目の平均点により成績の序列を付していたが、公平性等を鑑み、検討を行い、令和元年度よりG P Aによる成績で序列を付することとした。

なお、G P Aの算出方法は「福井工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」及び「福井工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」により、次のとおりである。

【本 科】

1 学業成績は、次の区分により評定する。また、各評定に対し、G P (Grade Point) を定める。

評定	秀	優	良	可	不可
評点	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下
G P	4	3	2	1	0

ただし、特別活動、プロジェクト演習、卒業研究にはG Pは定めない。

2 G P A (Grade Point Average) に、学期G P Aと累積G P Aを定め、次の式によって算出する。それぞれ小数第3位を四捨五入し小数第2位まで求める。ただし、G Pが定められていない科目は除く。

$$\text{学期G P A} = \frac{(\text{履修科目の前期または学年末時点のG P} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{前期に成績評価された履修科目、または当該学年の履修科目の総単位数}}$$

$$\text{累積G P A} = \frac{(\text{在学期間の合格科目のG P} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{在学期間の必修科目及び履修届を提出した選択科目の総単位数}}$$

不合格科目が合格認定された場合には、累積G P Aの算出においてのみ合格科目として取り扱う。

ただし、原級留置となった場合、当該学年の科目は、合格した選択科目を除き、累積G P Aの算出に含めない。

3 各学年または学期で成績による序列が必要な場合は、学期G P Aの値が高い者を上位として序列をつける。ただし、学期G P Aの値が等しい場合は評定の高い科目が多い者を上位とし、なおも等しい場合には履修選択科目数が多い者を上位とする。

【専攻科】

1 成績は、次の区分によって秀、優、良、可、不可と評定する。また、各評定区分に対応したG P (Grade Point) を次表のように定める。

評定	秀	優	良	可	不可
評点	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下
G P	4	3	2	1	0

ただし、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ、インターンシップ、海外インターンシップについて、G Pは定めない。

2 G P A (Grade Point Average) に、学期G P Aと累積G P Aを定め、次のように算出する。それぞれ小数第3位を四捨五入し小数第2位までを求める。ただし、G Pが定められていない科目は、算出から除く。

$$\text{学期G P A} = \frac{(\text{当該学期の合格科目のG P} \times \text{合格科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{当該学期の成績評価された履修科目の総単位数}}$$

累積GPA= $\frac{(\text{在学期間の合格科目のGPA} \times \text{合格科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{在学期間の履修科目の総単位数}}$ 不合格科目を再履修し、合格の評価であった場合及び再履修の結果再び不合格の評価であった場合、「在学期間の履修科目の総単位数」に、それぞれ再履修前の不合格科目に関しては算入しない。 3 学期で成績による序列が必要な場合は、学期GPAの値が高い者を上位として序列をつける。学年で成績による序列が必要な場合は、累積GPAの値の高い者を上位として序列をつける。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/07/honka-seiseki.pdf https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/07/senkouka-seiseki.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 以下のディプロマ・ポリシーに沿って、厳格かつ適正に評価された成績を卒業・修了の各認定会議に諮り、承認を得た後、卒業・修了認定を行っている。 【本 科】 福井高専は、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点 において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位（各学科のカリキュラム表を参照してください。）の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士（工学）と称することを認めます。 - RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 - RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 - RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 - RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 - RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。 機械工学科 機械工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者となるために、機械技術者と	

して必要な基礎学力、技術革新・高度情報化社会に対応できる能力、実践的能力および論理的思考能力を身に付ける。

電気電子工学科

電気電子工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身につけた創造性豊かな電気電子技術者となるために、電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力、幅広い専門分野に適応できる応用力、独創力およびコミュニケーション能力を身につける。

電子情報工学科

電子情報工学科では、次の内容を教育目標として加えています。情報化社会の基盤となるソフトウェア技術、コンピュータネットワーク技術及びコンピュータ制御技術で、種々の問題を解決できる有能な技術者となるために、次にあげる能力を養成する。(1) 電子工学及び情報工学の技術者として必要な基礎的な学力と能力 (2) 変化する IT 社会に対応できる応用力 (3) 実験実習や卒業研究をととした実践的能力や創造能力

物質工学科

物質工学科では、次の内容を教育目標として加えています。物質工学に必要とされる材料工学あるいは生物工学の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな化学技術者を養成する。

環境都市工学科

環境都市工学科では、上記に加えて次の内容を教育目標としています。社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者となるために、建設技術者に必要な基礎的な学力と能力、幅広い専門分野の理論に関する応用力、実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力を身に付ける。

【専攻科】

専攻科共通

専攻科は、得意とする専門分野を持つことに加え、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者となるような人材を育成することを目的にしています。

専攻科生産システム工学専攻

専攻科生産システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的とし、専攻科修了時点において学生が身に付けるべき能力（学習教育目標）を下記の通り定めます。これらの能力の獲得と学則の定める所定の授業科目等を履修し、基準となる単位取得をもって人材像の達成と見なし、本校専攻科を修了した者が、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することによって学位を授与します。

専攻科環境システム工学専攻

専攻科環境システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上

に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的とし、専攻科修了時点において学生が身に付けるべき能力（学習教育目標）を下記の通り定めます。これらの能力の獲得と学則の定める所定の授業科目等を履修し、基準となる単位取得をもって人材像の達成と見なし、本校専攻科を修了した者が、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することによって学位を授与します。

専攻科の学生が修了時点において身に付けるべき能力（学習教育目標）：専攻科共通

- JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
- JC 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- JD 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
- JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.fukui-nct.ac.jp/information/document/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.fukui-nct.ac.jp/information/certification-evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第 1 条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 福井高専は、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点 において学生が身につけるべき能力(学習教育目標)を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位(各学科のカリキュラム表を参照してください。) の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士(工学)と称することを認めます。 RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。 機械工学科 機械工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者となるために、機械技術者として必要な基礎学力、技術革新・高度情報化社会に対応できる能力、実践的能力および論理的思考能力を身に付ける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)

(概要)

福井高専では、高専機構が定めたコアカリキュラムを学科ごとに適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に着けた卒業生を社会に輩出するために下記の方針に基づいてカリキュラムを作成しています。

- ① エンジニアとなるための学習のスタートとして1学年から専門科目を配置するとともに、一般科目との連携を図りながら早期技術者教育を開始する。
- ② 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」教育を実施する。
- ③ 多様化する現代社会に対応する技術者を養成するために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ④ 創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ⑤ 実践力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。
- ⑥ 国際社会で活躍できる技術者を養成するために、グローバルエンジニア教育を充実させる。

機械工学科

機械工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1学年では、力学、情報処理および機械系ものづくりに関する導入レベルの能力を身に付ける。
- ② 2学年では、工作法、材料学、プログラミング、実習および製図など、機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力を身に付ける。
- ③ 3学年では、工作法、材料学、材料力学、流れ学、情報制御、電気工学、実習、製図およびメカトロニクスなどに関する科目により、機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力とデザインマインドを身に付ける。
- ④ 4学年では、力学、熱流体、機構学、電子工学、センサ工学、知能機械、設計製図などに関する科目により、機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力とデザインマインド、さらに工学実験により、実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。
- ⑤ 5学年では、力学、伝熱、自動制御、数値計算、CAD・CAEに関する必修科目および機械系選択科目により、機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力、さらに卒業研究と工学実験により、実践的能力と論理的思考能力、コミュニケーション基礎能力を身に付ける。

自然科学系一般科目

自然科学系一般科目では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の育成に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材の育成のために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

・低学年（1～2年）

数学では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力の育成が図れるように科目を配置している。

物理では、身の回りの運動や、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を、化学では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物では、生命科学の基本概念を理解できる能力を養成する。

保健体育では、種々のスポーツを各自の能力に応じて実施できる能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

数学では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力が育成できるように学習内容を配置している。

物理では、物理現象の基礎的な知識を習得し、工学との関連性を理解できる能力を養成する。

保健体育では、自己の体力を的確にとらえ、積極的に運動実践ができる能力、生涯における健康管理能力一環として生活習慣病について理解できる能力の育成に取り組んでいる。

人文社会系一般科目

人文社会科学系一般科目では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けさせるために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています

・低学年（1～2年）

国語科では、日本語の小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できるよう、学習内容を配置している。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を養成する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

国語科では、日本語文章表現に関する基礎的な知識を理解し、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得、さらに意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な視野を拡げることができるよう、科目を配置している。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を養成する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力の養成に取り組んでいる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に着けようと積極的に行動できる人を求めます。

機械工学科

機械工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムや、環境、福祉、宇宙工学などの分野に興味がある人
2. サイエンスを学び、ものづくりに創造性を発揮して、人間社会に貢献したい人
3. 機械を創る材料、動かすエネルギー、制御する情報など幅広い技術を身に付けたい人

学部等名 電気電子工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 福井高専は、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点 において学生が身につけるべき能力(学習教育目標)を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位(各学科のカリキュラム表を参照してください。) の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士(工学)と称することを認めます。 - RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 - RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 - RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 - RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 - RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。 電気電子工学科 電気電子工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身につけた創造性豊かな電気電子技術者となるために、電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力、幅広い専門分野に適応できる応用力、独創力およびコミュニケーション能力を身につける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)

(概要)

福井高専では、高専機構が定めたコアカリキュラムを学科ごとに適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に着けた卒業生を社会に輩出するために下記の方針に基づいてカリキュラムを作成しています。

- ① エンジニアとなるための学習のスタートとして1学年から専門科目を配置するとともに、一般科目との連携を図りながら早期技術者教育を開始する。
- ② 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」教育を実施する。
- ③ 多様化する現代社会に対応する技術者を養成するために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ④ 創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ⑤ 実践力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。
- ⑥ 国際社会で活躍できる技術者を養成するために、グローバルエンジニア教育を充実させる。

電気電子工学科

電気電子工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身につけた創造性豊かな電気電子技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1学年では、ものづくり、情報処理の基礎的な能力を養うために、専門基礎Ⅰ～Ⅲを修得する。
- ② 2学年では、電気電子工学の導入基礎的な能力を養うために電気回路Ⅰ等を修得し、さらに理論と実践のつながりを学び応用力を身につける。
- ③ 3学年では、電気電子工学の基礎的な能力を養うために電気回路Ⅱ等を修得し、さらに理論と実践のつながりを学び、応用力、独創力を身につける。
- ④ 4学年では、電気電子工学の基礎的な能力を養うために電気回路Ⅲ等を修得し、さらに理論と実践のつながりを学び、応用力を身につける。
- ⑤ 5学年では、電気電子工学を応用する能力を養うために電気回路Ⅳ等を修得し、さらに理論と実践のつながりを学び、応用力を身につけ、卒業研究を通して応用力、独創力、コミュニケーション能力を身につける。

自然科学系一般科目

自然科学系一般科目では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の育成に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材の育成のために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

・低学年（1～2年）

数学では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力の育成が図れるように科目を配置している。

物理では、身の回りの運動や、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を、化学では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物では、生命科学の基本概念を理解できる能力を養成する。

保健体育では、種々のスポーツを各自の能力に応じて実施できる能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

数学では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力が育成できるように学習内容を配置している。

物理では、物理現象の基礎的な知識を習得し、工学との関連性を理解できる能力を養成する。

保健体育では、自己の体力を的確にとらえ、積極的に運動実践ができる能力、生涯における健康管理能力一環として生活習慣病について理解できる能力の育成に取り組んでいる。

人文社会系一般科目

人文社会科学系一般科目では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けさせるために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています

・低学年（１～２年）

国語科では、日本語の小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できるよう、学習内容を配置している。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を養成する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（３～４年）

国語科では、日本語文章表現に関する基礎的な知識を理解し、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得、さらに意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な視野を拓けることができるよう、科目を配置している。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を養成する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力の養成に取り組んでいる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

電気電子工学科

電気電子工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人
2. ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
3. 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人

学部等名 電子情報工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 福井高専は、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点 において学生が身につけるべき能力(学習教育目標)を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位(各学科のカリキュラム表を参照してください。) の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士(工学)と称することを認めます。 - RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 - RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 - RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 - RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 - RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。 電子情報工学科 電子情報工学科では、次の内容を教育目標として加えています。 情報化社会の基盤となるソフトウェア技術、コンピュータネットワーク技術及びコンピュータ制御技術で、種々の問題を解決できる有能な技術者となるために、次にあげる能力を養成する。(1) 電子工学及び情報工学の技術者として必要な基礎的な学力と能力 (2) 変化する IT 社会に対応できる応用力 (3) 実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)

(概要)

福井高専では、高専機構が定めたコアカリキュラムを学科ごとに適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に着けた卒業生を社会に輩出するために下記の方針に基づいてカリキュラムを作成しています。

- ① エンジニアとなるための学習のスタートとして1学年から専門科目を配置するとともに、一般科目との連携を図りながら早期技術者教育を開始する。
- ② 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」教育を実施する。
- ③ 多様化する現代社会に対応する技術者を養成するために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ④ 創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ⑤ 実践力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。
- ⑥ 国際社会で活躍できる技術者を養成するために、グローバルエンジニア教育を充実させる。

電子情報工学科

電子情報工学科では、上記の方針に則り、ソフトウェア、コンピュータネットワーク及びコンピュータ制御の分野で有能な技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1学年では、専門基礎により、コンピュータに関連するものづくり、及び、情報処理の基礎的な能力を育成する。
- ② 2学年では、プログラミング基礎、情報工学基礎、電子工学基礎、実験などの科目により、コンピュータに関連する後期中等教育レベルの電子工学および情報工学の基礎を理解する能力を育成する。
- ③ 3学年では、プログラミング応用、オペレーティングシステム、数値計算、計算機構成論Ⅰ、情報ネットワーク基礎、電子回路Ⅰ、実験などの科目により、ソフトウェアやハードウェアなどの基礎的な電子工学及び情報工学の知識を理解する能力を育成するとともに、その技術を修得する。
- ④ 4学年では、ソフトウェア工学、情報構造論、計算機構成論Ⅱ、電子回路Ⅱ、創造工学演習、実験などの科目により、ソフトウェアやハードウェアなどの有為な技術者として必要な電子工学及び情報工学の知識を理解する能力を育成するとともに、その技術を修得する。
- ⑤ 5学年では、制御工学、情報ネットワーク、情報理論、人工知能の他、計算機アーキテクチャ、計算機シミュレーションなどの科目を通して、電子工学及び情報工学に携わる技術者として必要な実践的能力及び創造能力を、幅広く育成する。さらに、実験、卒業研究などを通して、自ら情報を収集、分析、整理して、具体的に、問題を発見する能力、解決方法を導出する能力、評価する能力を深める。

自然科学系一般科目

自然科学系一般科目では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の育成に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材の育成のために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

・低学年（1～2年）

数学では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力の育成が図れるように科目を配置している。

物理では、身の回りの運動や、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を、化学では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、

生物では、生命科学の基本概念を理解できる能力を養成する。
保健体育では、種々のスポーツを各自の能力に応じて実施できる能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

数学では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力が育成できるように学習内容を配置している。

物理では、物理現象の基礎的な知識を習得し、工学との関連性を理解できる能力を養成する。

保健体育では、自己の体力を的確にとらえ、積極的に運動実践ができる能力、生涯における健康管理能力一環として生活習慣病について理解できる能力の育成に取り組んでいる。

人文社会系一般科目

人文社会科学系一般科目では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けさせるために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています

・低学年（1～2年）

国語科では、日本語の小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できるよう、学習内容を配置している。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を養成する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

国語科では、日本語文章表現に関する基礎的な知識を理解し、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得、さらに意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な視野を拓けることができるよう、科目を配置している。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を養成する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力の養成に取り組んでいる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

電子情報工学科

電子情報工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. コンピュータの構造や仕組みに興味があり、高度なプログラミング技術を習得したい人
2. ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
3. 未来のIT機器の開発をやってみたい人

学部等名 物質工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 福井高専は、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点 において学生が身につけるべき能力(学習教育目標)を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位(各学科のカリキュラム表を参照してください。) の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士(工学)と称することを認めます。 - RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 - RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 - RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 - RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 - RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。 物質工学科 物質工学科では、次の内容を教育目標として加えています。物質工学に必要とされる材料工学あるいは生物工学の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな化学技術者を養成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)

(概要)

福井高専では、高専機構が定めたコアカリキュラムを学科ごとに適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に着けた卒業生を社会に輩出するために下記の方針に基づいてカリキュラムを作成しています。

- ① エンジニアとなるための学習のスタートとして1学年から専門科目を配置するとともに、一般科目との連携を図りながら早期技術者教育を開始する。
- ② 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」教育を実施する。
- ③ 多様化する現代社会に対応する技術者を養成するために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ④ 創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ⑤ 実践力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。
- ⑥ 国際社会で活躍できる技術者を養成するために、グローバルエンジニア教育を充実させる。

物質工学科

物質工学科は、上記の方針に則り、化学的視点から材料工学あるいは生物工学を学び、化学を人の為に活かせる化学技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1学年では、専門基礎により物質工学に必要な、ものづくりや情報処理の基礎的な能力を育成する。
- ② 2、3学年では、工学基礎物理や数理統計学等の数学や基礎科学を学び、さらに幅広い専門基礎能力を育成するために、物質工学の基礎となる有機化学・無機化学・分析化学・物理化学・生化学・化学工学などの物質の本質を理解し、応用化学及び生物化学的手法により新物質を開発する際に必要とされる幅広い基礎能力を育成する。
- ③ 4、5学年では、専門性を深化させる科目として物理化学や化学工学及び生化学など、発展的科目として有機合成化学や基礎材料化学及び生命科学などを共通科目として修得し、さらに材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力を育成するために、材料工学コースでは材料化学や材料工学で材料の合成法や物性、生物工学コースでは化学を基礎とした微生物学や分子生物学などを修得して、化学的視点を基にした、化学品・医薬品・食品等の得意とする専門分野で活躍できる技術者を育成する。
- ④ 1～5学年を通して、実践的能力及びプレゼンテーション能力を育成するために、物質工学実験等により実践力、論理的思考力を育成する。さらに、総括的科目として、5年生の卒業研究では、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成する。

自然科学系一般科目

自然科学系一般科目では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の育成に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材の育成のために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

・低学年（1～2年）

数学では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力の育成が図れるように科目を配置している。

物理では、身の回りの運動や、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を、化学では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物では、生命科学の基本概念を理解できる能力を養成する。

保健体育では、種々のスポーツを各自の能力に応じて実施できる能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

数学では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力が育成できるように学習内容を配置している。

物理では、物理現象の基礎的な知識を習得し、工学との関連性を理解できる能力を養成する。

保健体育では、自己の体力を的確にとらえ、積極的に運動実践ができる能力、生涯における健康管理能力一環として生活習慣病について理解できる能力の育成に取り組んでいる。

人文社会系一般科目

人文社会科学系一般科目では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けさせるために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています

・低学年（1～2年）

国語科では、日本語の小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できるよう、学習内容を配置している。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を養成する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

国語科では、日本語文章表現に関する基礎的な知識を理解し、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得、さらに意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な視野を拡げることができるよう、科目を配置している。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を養成する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力の養成に取り組んでいる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

物質工学科

物質工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. 化学と生物の力により人々の健やかな生活に貢献したい人
2. 化学的手法を用いて有用物質や新しい材料を生み出すことに興味がある人
3. 微生物や遺伝子組換え技術等の生物機能を活用した物質生産や環境浄化に興味がある人

学部等名 環境都市工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 福井高専は、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点 において学生が身につけるべき能力(学習教育目標)を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位(各学科のカリキュラム表を参照してください。) の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士(工学)と称することを認めます。 RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。 環境都市工学科 環境都市工学科では、上記に加えて次の内容を教育目標としています。 社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者となるために、建設技術者に必要な基礎的な学力と能力、幅広い専門分野の理論に関する応用力、実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力を身に付ける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)

(概要)

福井高専では、高専機構が定めたコアカリキュラムを学科ごとに適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に着けた卒業生を社会に輩出するために下記の方針に基づいてカリキュラムを作成しています。

- ① エンジニアとなるための学習のスタートとして1学年から専門科目を配置するとともに、一般科目との連携を図りながら早期技術者教育を開始する。
- ② 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」教育を実施する。
- ③ 多様化する現代社会に対応する技術者を養成するために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ④ 創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ⑤ 実践力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。
- ⑥ 国際社会で活躍できる技術者を養成するために、グローバルエンジニア教育を充実させる。

環境都市工学科

環境都市工学科では、上記の方針に則り、社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を養成するために、具体的には以下のような科目および設計製図、実験実習を各学年に配して学力や洞察力を段階的に高める教育課程を編成しています。

- ① 1学年では専門基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを修得することによって、建設技術に関するものづくりや情報処理の基礎的な能力を育む。
- ② 2学年では測量学、プログラミング、構造力学Ⅰ、建設材料学Ⅰ、建築計画Ⅰを修得することによって、高等教育導入レベルの建設技術に関する基礎的な能力を育む。
- ③ 3学年では応用測量学、構造力学Ⅱ、建設材料学Ⅱ、水理学Ⅰ、地盤工学Ⅰ、環境衛生工学、環境都市計画論を修得することによって、建設技術に関する基礎的知識を理解する能力を育む。
- ④ 4学年では構造力学Ⅲ、水理学Ⅱ、地盤工学Ⅱ、建築計画Ⅱ、建築環境Ⅰ、コンクリート構造学Ⅰ、交通工学、施工管理学を修得することによって、建設技術の基礎的知識を理解し、応用する能力を育む。
- ⑤ 5学年では数値解析、鋼構造学、構造デザイン、河川水文学、建設複合材料、建設法規、建築設備Ⅰの必修科目や土木分野、建築分野の選択科目を修得することによって、さらに、卒業研究に取り組むことによって建設技術者に必要な実践的かつ創造的な能力を育む。

自然科学系一般科目

自然科学系一般科目では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の育成に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材の育成のために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

・低学年（1～2年）

数学では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力の育成が図れるように科目を配置している。

物理では、身の回りの運動や、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を、化学では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物では、生命科学の基本概念を理解できる能力を養成する。

保健体育では、種々のスポーツを各自の能力に応じて実施できる能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

数学では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力が育成できるように学習内容を配置している。

物理では、物理現象の基礎的な知識を習得し、工学との関連性を理解できる能力を養成する。

保健体育では、自己の体力を的確にとらえ、積極的に運動実践ができる能力、生涯における健康管理能力一環として生活習慣病について理解できる能力の育成に取り組んでいる。

人文社会系一般科目

人文社会科学系一般科目では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けさせるために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています

・低学年（1～2年）

国語科では、日本語の小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できるよう、学習内容を配置している。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を養成する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力の育成に取り組んでいる。

・高学年（3～4年）

国語科では、日本語文章表現に関する基礎的な知識を理解し、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得、さらに意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な視野を拡げることができるよう、科目を配置している。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を養成する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力の養成に取り組んでいる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

環境都市工学科

環境都市工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
2. 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
3. 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

学部等名 生産システム工学専攻
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 専攻科共通 専攻科は、得意とする専門分野を持つことに加え、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者となるような人材を育成することを目的にしています。 専攻科生産システム工学専攻 専攻科生産システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的とし、専攻科修了時点において学生が身に付けるべき能力（学習教育目標）を下記の通り定めます。これらの能力の獲得と学則の定める所定の授業科目等を履修し、基準となる単位取得をもって人材像の達成と見なし、本校専攻科を修了した者が、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することによって学位を授与します。 専攻科の学生が修了時点において身に付けるべき能力（学習教育目標）：専攻科共通 JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。 JC 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 JD 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。 JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 専攻科共通 専攻科は、高専5年間の教育課程の上に、より高度な専門知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応でき、かつ国際的にも通用する実践的技術者を養成します。具体的には以下の教育を実施します。 1. 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できるような教養教育を実施します。

2. 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション基礎能力を養成するための実践的コミュニケーション教育を実施します。
3. 技術者に求められるデザイン能力を養成するための PBL 教育を実施します。
4. 実社会に通用する実践的能力および論理的思考能力を養うために実験科目、演習科目、インターンシップ等の実践的な体験型教育を実施します。

専攻科生産システム工学専攻

専攻科生産システム工学専攻は、技術の高度化、複雑化に対応できる総合化の能力と先進技術開発のための創造性を身に付け、機械工学の分野、電気電子工学の分野、情報工学の分野に通じた人材を養成します。具体的には以下の教育方針として教育課程を編成しています。

1. 専門工学の基礎として、数学、自然科学、情報関連の科目を配置します。
2. 得意とする専門工学（機械工学の分野、電気電子工学の分野、情報工学の分野）をさらに充実させるための科目を配置します。
3. 得意とする専門以外の関連する技術分野の科目も単位取得可能な仕組みにします。
4. 専門工学を修めた実践的技術者としての総合力を磨くため、生産システム工学特別研究を2年間行います。

○上述した科目群に係る単位修得の認定は、定期試験、レポート、口頭発表など多様な方法を用いて評価します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

求める学生像（専攻科共通）

本校専攻科では、次のような資質や意欲を持つ人を広く求めています。

1. 得意とする工学分野の基礎能力（数学的素養を含む）を身に付けている人
2. 何事にも自主的・能動的に臨む姿勢を持つ人
3. ものづくり・環境づくりに意欲のある人
4. 多様なシステムを理解し、創造的にデザインする能力を身に付けたい人
5. 国際社会で活躍する実践的技術者を目指す人
6. 学士（工学）の学位を取得したい人

入学者選抜の基本方針

（1）推薦による選抜

出身高等専門学校等の長が学業成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。

（2）学力検査による選抜

本校専攻科への入学意欲がある志願者のうち、学力検査（英語（TOEIC スコア等による換算を含む）、数学、専門科目）、出願時に提出する調査書・小論文等に基づいた面接の結果を総合的に評価して選抜します。

（3）社会人特別選抜

企業等に一定以上の在職期間を有し、所属する企業等の長が勤務成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出

する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。
--

学部等名 環境システム工学専攻
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 専攻科共通 専攻科は、得意とする専門分野を持つことに加え、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者となるような人材を育成することを目的にしています。 専攻科環境システム工学専攻 専攻科環境システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的とし、専攻科修了時点において学生が身に付けるべき能力（学習教育目標）を下記の通り定めます。これらの能力の獲得と学則の定める所定の授業科目等を履修し、基準となる単位取得をもって人材像の達成と見なし、本校専攻科を修了した者が、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することによって学位を授与します。 専攻科の学生が修了時点において身に付けるべき能力（学習教育目標）：専攻科共通 JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。 JC 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 JD 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。 JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)

(概要) 専攻科共通 専攻科は、高専5年間の教育課程の上に、より高度な専門知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応でき、かつ国際的にも通用する実践的技術者を養成します。具体的には以下の教育を実施します。 1. 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できるような教養教育を実施します。 2. 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション基礎能力を養成するための実践的コミュニケーション教育を実施します。 3. 技術者に求められるデザイン能力を養成するためのPBL教育を実施します。 4. 実社会に通用する実践的能力および論理的思考能力を養うために実験科目、演習科目、インターンシップ等の実践的な体験型教育を実施します。 専攻科環境システム工学専攻 専攻科環境システム工学専攻は、環境にやさしい製品や再資源化を前提とした製品の製造プロセスの開発等、あるいは地球環境、地域の環境を保全しつつ、自然災害に強い、より安全で快適な都市づくりに通じた人材を養成します。具体的には以下の教育方針として教育課程を編成しています。 1. 専門工学の基礎として、数学、自然科学、情報関連の科目を配置します。 2. 得意とする専門工学（応用化学の分野、土木工学の分野）をさらに充実させるための科目を配置します。 3. 得意とする専門以外の関連する技術分野の科目も単位取得可能な仕組みにします。 4. 専門工学を修めた実践的技術者としての総合力を磨くため、環境システム工学特別研究を2年間行います。 ○上述した科目群に係る単位修得の認定は、定期試験、レポート、口頭発表など多様な方法を用いて評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) 求める学生像（専攻科共通） 本校専攻科では、次のような資質や意欲を持つ人を広く求めています。 1. 得意とする工学分野の基礎能力（数学的素養を含む）を身に付けている人 2. 何事にも自主的・能動的に臨む姿勢を持つ人 3. ものづくり・環境づくりに意欲のある人 4. 多様なシステムを理解し、創造的にデザインする能力を身に付けたい人 5. 国際社会で活躍する実践的技術者を目指す人 6. 学士（工学）の学位を取得したい人 入学者選抜の基本方針 (1) 推薦による選抜 出身高等専門学校等の長が学業成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。 (2) 学力検査による選抜 本校専攻科への入学意欲がある志願者のうち、学力検査（英語(TOEICスコア等)によ

る換算を含む)、数学、専門科目)、出願時に提出する調査書・小論文等に基づいた面接の結果を総合的に評価して選抜します。
(3) 社会人特別選抜 企業等に一定以上の在職期間を有し、所属する企業等の長が勤務成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
一般科目教室	－	8 人	6 人	6 人	4 人	0 人	24 人
機械工学科	－	6 人	2 人	1 人	0 人	0 人	9 人
電気電子工学科	－	5 人	3 人	0 人	2 人	0 人	10 人
電子情報工学科	－	5 人	3 人	2 人	1 人	0 人	11 人
物質工学科	－	5 人	3 人	3 人	1 人	0 人	12 人
環境都市工学科	－	5 人	3 人	0 人	2 人	0 人	10 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		42 人					42 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/course/faculty-member/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
平成 30 年度における主な F D 関係行事等							
学内 F D 講演会、県内大学等との「フレックス F D 合宿研修会」、T P チャート研修会、 T P チャート・T S 作成ワークショップ、発想法の指導に関する F D 研修会、 ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ、公開授業週間（年 2 回）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	202 人	101.0%	若干名	1 人
電気電子工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	202 人	101.0%	若干名	1 人
電子情報工学	40 人	41 人	102.5%	200 人	201 人	100.5%	若干名	0 人

科								
物質工学科	40 人	40 人	100.0%	200 人	197 人	98.5%	若干名	1 人
環境都市工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	210 人	105.0%	若干名	0 人
合計	200 人	204 人	102.0%	1000 人	1012 人	101.2%	若干名	3 人
生産システム工学専攻	12 人	15 人	125.0%	24 人	28 人	116.7%	0 人	0 人
環境システム工学専攻	8 人	16 人	200.0%	16 人	24 人	150.0%	0 人	0 人
合計	20 人	31 人	155%	40 人	52 人	130%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	34 人 (100%)	13 人 (38.2%)	21 人 (61.8%)	0 人 (0%)
電気電子工学科	42 人 (100%)	9 人 (21.4%)	30 人 (71.4%)	3 人 (7.1%)
電子情報工学科	31 人 (100%)	12 人 (38.7%)	19 人 (61.3%)	0 人 (0%)
物質工学科	32 人 (100%)	14 人 (43.8%)	17 人 (53.1%)	1 人 (3.1%)
環境都市工学科	40 人 (100%)	18 人 (45%)	21 人 (52.5%)	1 人 (2.5%)
合計	179 人 (100%)	66 人 (36.9%)	108 人 (60.3%)	5 人 (2.8%)
生産システム工学専攻	16 人 (100%)	1 人 (6.3%)	15 人 (93.8%)	0 人 (0%)
環境システム工学専攻	14 人 (100%)	4 人 (28.6%)	10 人 (71.4%)	0 人 (0%)
合計	30 人 (100%)	5 人 (16.7%)	25 人 (83.3%)	0 人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先：福井工業高等専門学校専攻科、富山高等専門学校専攻科、東京農工大学、長岡技術科学大学、信州大学、山梨大学、千葉大学、金沢大学、福井大学、滋賀県立大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学、三重大学、九州大学 主な就職先：アイシン・エイ・ダブリュ工業、ANA ラインメンテナンステクニクス、越前市役所、大阪ガス、花王、関西電力、キヤノン、京セラ、酒井化学工業、小島プレス工業、サカイエルコム、サントリースピリッツ、信越化学工業、スガイ化学工業、SUBARU、セイコーエプソン、第一工業製薬、第一三共プロファーマ、中部電力、東京ガス、西日本旅客鉄道、パナソニック、福井県庁、兵神装備、北陸電力、増永眼鏡				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
各科目のシラバスにおいて、授業の概要・進め方・内容・方法・注意点を明記するとともに、開講期（通年・前期・後期）における授業計画（週ごとの、授業内容・方法と到達目標）を明記している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

シラバスにおいて、あらかじめ設定し公表している評価割合（成績評価方法・基準）により、厳格かつ適正に評価された成績を基に、単位授与を行っている。なお、授業科目の履修成績に対する異議申立ての手続き等について、全校的なガイドラインを設け、学生に不利益とならぬよう配慮している。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	169 単位	○有・無	単位
	機械工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	○有・無	単位
	電気電子工学科	169 単位	○有・無	単位
	電気電子工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	○有・無	単位
	電子情報工学科	169 単位	○有・無	単位
	電子情報工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	○有・無	単位
	物質工学科	169 単位	○有・無	単位
	物質工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	○有・無	単位
	環境都市工学科	169 単位	○有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	○有・無	単位
	生産システム工学専攻	62 単位	○有・無	単位
	環境システム工学専攻	62 単位	○有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/campus/>

<https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/07/sisetu2018.pdf>

<https://www.fukui-nct.ac.jp/life/welfare-2/>

<https://www.fukui-nct.ac.jp/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	78,550 ～96,150 円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550 円（年額） 教科書代 36,000～42,000 円 後援会入会金 10,000 円 後援会会費 24,000 円（年額） 学生会費 7,000 円（年額） 寄宿寮（寮生のみ） 相部屋 8,400 円（年額） 個室 9,600 円（年額） 寮生会費（寮生のみ） 2,000 円（年額）
	電気電子工学科	234,600 円	84,600 円	78,550 ～96,150 円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550 円（年額） 教科書代 36,000～42,000 円 後援会入会金 10,000 円 後援会会費 24,000 円（年額） 学生会費 7,000 円（年額） 寄宿寮（寮生のみ） 相部屋 8,400 円（年額） 個室 9,600 円（年額） 寮生会費（寮生のみ） 2,000 円（年額）
	電子情報工学科	234,600 円	84,600 円	78,550 ～96,150 円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550 円（年額） 教科書代 36,000～42,000 円 後援会入会金 10,000 円 後援会会費 24,000 円（年額） 学生会費 7,000 円（年額） 寄宿寮（寮生のみ） 相部屋 8,400 円（年額） 個室 9,600 円（年額） 寮生会費（寮生のみ） 2,000 円（年額）
	物質工学科	234,600 円	84,600 円	78,550 ～96,150 円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550 円（年額） 教科書代 36,000～42,000 円 後援会入会金 10,000 円 後援会会費 24,000 円（年額） 学生会費 7,000 円（年額） 寄宿寮（寮生のみ） 相部屋 8,400 円（年額） 個室 9,600 円（年額） 寮生会費（寮生のみ） 2,000 円（年額）
	環境都市工学科	234,600 円	84,600 円	78,550 ～96,150 円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550 円（年額） 教科書代 36,000～42,000 円 後援会入会金 10,000 円 後援会会費 24,000 円（年額） 学生会費 7,000 円（年額） 寄宿寮（寮生のみ） 相部屋 8,400 円（年額）

					個 室 9,600 円 (年額) 寮生会費 (寮生のみ) 2,000 円 (年額)
	生産システム工学 専攻	234,600 円	84,600 円	23,550 ～52,550 円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550 円 (年額) 教科書代 12,000～17,000 円 後援会入会金 10,000 円 (他高専等からの入学者のみ) 後援会会費 24,000 円 (年額)
	環境システム工学 専攻	234,600 円	84,600 円	23,550 ～52,550 円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550 円 (年額) 教科書代 12,000～17,000 円 後援会入会金 10,000 円 (他高専等からの入学者のみ) 後援会会費 24,000 円 (年額)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 各教員がオフィスアワーを設定し、学生の修学支援を実施している。本科 4、5 年生においては、各クラスに担任、副担任を置き、学生の学習・生活全般の指導を行っている。専攻科学生については、各学科から専攻科委員を置き、学生の指導を行っている また、学生相談室の事業の一環として、「第 2 学生相談室」を設置し、学業面に不安のある学生を対象に本校教員 O B 等が、マンツーマンで指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援室を設置し、就職・進学に関する相談、書類作成の支援等を行っている。また、学生が進路選択の参考とすることを目的に「キャリアガイダンス」、「専攻科・大学・大学院合同説明会」、「キャリア教育セミナー」等の行事を企画、実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室に看護師 1 名 (常勤)、事務職員 1 名 (非常勤) を配置し、急病者等の応急処置、健康相談等に当たっている。また、学生相談室において相談室員 4 名、カウンセラー 2 名 (非常勤) がカウンセリングを実施 (火・土・日曜を除く) している。さらに、特別支援室を設け、心身に障害がある学生の教育及び学生生活の支援が必要と認められた学生に支援チームを立ち上げ、支援内容等の検討を行い、支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/
